

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	(イ) アンゴラ共和国・ベンゴ州における地雷被害の局限と地域復興に寄与 (ロ) 機械による地雷処理技術等を移転し、自立処理能力を向上
(2) 事業内容	(イ) 地雷処理 C N I D A H 及び州行政府と緊密に調整し、機械を使用した地雷処理作業を実施し、約40haの安全化を図る。 (ロ) 地元隊員に対する技術等の移転 現地地雷処理機関（I N A D）の隊員に対しO J T 等を通じて、①地雷除去に関する技術（地雷除去機の操作、整備）教育と同時に、②マネジメント（事業運営管理・経費管理・安全管理等）に関するキャパシティビルディングを行う。 (ハ) マブバス村の地域復興支援 地雷処理活動を行う地域の居住地において、①道路及び除去地等の整備、②給水設備整備、③危険回避啓蒙教育支援を行うとともに農業心育成及び地域清掃支援等を行い住民に対し地域復興について啓発、啓蒙を図る。
(3) 達成された効果	(イ) 地雷処理 ・住宅建設予定地約14ha、給水施設用地2.6haの計16.6haを除去・安全化した。（2012年10月末現在） 別紙第2「地雷処理実績等表」 (ロ) 技術移転 ・I N A D 隊員のリーダー要員1名、オペレーター要員3名、整備要員2名、車両操縦要員3名、救護要員1名、企画スタッフ1名、会計スタッフ1名の合計12名に対してそれぞれの個人的特性・適性に応じて個人ごとの評価表を作成してO J T で指導している。今年度末の評価をもって数名の交代を予定。（I N A D 長官と調整済） (ハ) 地域復興支援 ・5000L水タンクによる給水場を管理し、約500人の近傍住民に毎日（AM0600～0830、PM1400～1700）常続的に給水中。 ・新除去地へ人員・器機材等の通行及び運搬を可能にするよう地区を横断する道路を約2Km新設・拡幅するとともにマブバス地区内のコミュニティ広場約9haの整地及び老朽電柱の撤去、不法投棄物の埋設処理等を実施した。なお、支援にあたっては、マブバス郡管理事務所と緊密に連携し、郡から2回（工事等の要望）、JMAS から1回（不法投棄対処）、業務要請を提出する等相互に協力を要請している。 ・危険回避啓蒙教育支援を8月4日の「JMAS 通り祭り」に併せ、参加した約100名に対し、展示パネル、教場内展示の地雷・砲弾及び除去機等を以って教育を実施した。また、マブバス郡の地区代表者会議に参加（2回）し、地雷除去活動等の連絡及び危険回避に

	対する協力を要請した。 なお、本事業間の地雷・不発弾による住民の死傷者は皆無であり、地雷・不発弾等発見した場合、住民が自発的に弊会に通報するようになってきており、本事業間２回手榴弾等発見の通報があった。 ・農業心育成のため、マブバス地区の主要箇所に設置した花壇に植栽し、子供達に植物を育てる心を醸成中。 ・清掃活動支援にあたっては、引き続き毎週土曜日午前中に、マブバス地区内のゴミ収集及びゴミ捨て場の穴掘り等清掃支援活動を実施中（本事業間１０月末現在ゴミ収集２２回実施。穴掘り数は１２個）で、自発的に清掃を行う人々も増えており、地区内の道路及び公共場所等のゴミは少なくなっている。また、危険なガラス片、空き瓶の回収を子供の協力を得て実施し、注意を喚起している。 ・土かまど作り支援にあたっては、８月４日に実施した「ＪＭＡＳ 通り祭り」に、土かまどを使って調理・食事の場を設けて、昨年度作製した土かまどの普及を図った。
（４）今後の見通し	（イ）地雷処理 ベンゴ州政府の住宅２，０００戸建設計画に影響を及ぼさないよう、これから迎える夏季間のオーバーヒート及び雨季間の泥濘地の対策等機材の運用、維持管理に留意しつつ実施する。 （ロ）技術移転 隊員の評価で判明した欠落している基礎的事項を、重点的に教育して目標レベル到達を図る。 （ハ）復興支援 地元コミュニティと連携して、現事業を継続実施し、事業の拡充を図る。